(C)下野新聞社　無断複製

野球

姿川、豊郷破り初の栄冠

延長八回の攻防、4―3

県中学春季スポーツ

県中学春季スポーツは3日、清原球場ほかで野球、サッカー、バスケットボールなどを行った。

野球は、姿川が延長八回の攻防の末4―3で豊郷を破り、初の栄冠。サッカーは西那須野がPK戦で今市を退けて初優勝を飾った。バスケットボールは男子の一条、女子の陽南が優勝。ハンドボールは男子の小山三、女子の石橋が頂点に立った。

新体操は個人総合で高瀬未怜（国分寺）が女王の座に就き、団体は国分寺が優勝。相撲は団体と個人を行い、団体は若草が王座。個人戦も若草が独占し、無差別級は竹田章一郎、軽量級は小林詩音、1年生の部は直江重虎が優勝した。

ソフトボールは準決勝までを行い、西那須野と親園が決勝進出を決めた。

〈野球（清原球場）〉
▽準決勝　豊郷3―0大平、姿川3―1大平南
▽決勝

豊郷	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
姿川	1	0	1	0	0	1	0	0	1	4

（延長八回）
（姿）野中―小林純、大門（豊）加藤、桧山―岡村
▽三塁打　塚原（姿）▽二塁打　小松、腰塚（姿）山本（豊）

悔しさバネに関東へ

○…初めての決勝進出を果たすも、優勝に手が届かなかった豊郷。関直哉監督は「ここ一番の集中力で相手が上回っていた」と肩を落とした。

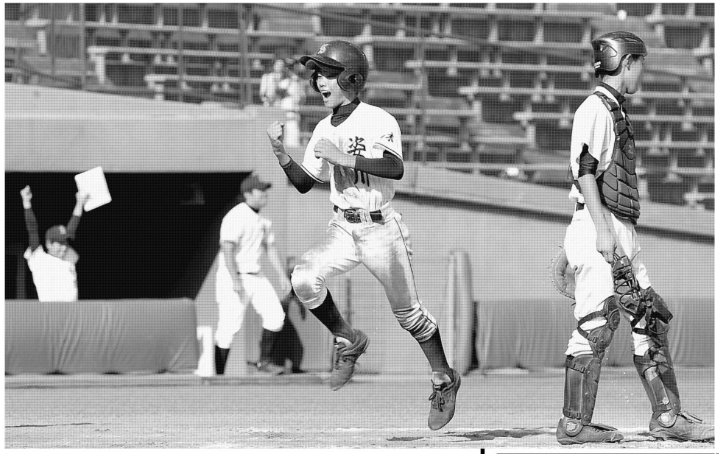
同点で迎えた最終回の七回。左前打で出塁した走者が二盗を決めて、2死二塁。打席には、2回戦でサヨナラ安打を放った5番の落合耀久平が立った。「直球狙い。投手が疲れてきているので甘い球を思いっきり振ろう」と3球目をたたいたが、惜しくも投ゴロに終わった。

この悔しさをバネに全国の舞台につながる関東大会へ挑む。加藤悠太主将は「ここまで来たら全国へ行く。勝負どころで強いチームになる」と成長を誓った。

野球優勝の姿川

姿川・腰塚孔明（八回に二塁打で出塁し、逆転のホームを踏む）

「真ん中寄りの直球を狙った。何でもいいから打ってやろうと思ったが、あそこまで飛ぶとは思わなかった。後の打者がホームに返してくれると信じていた」


8回、姿川の大門が適時打を放ち、三走の腰塚が逆転のホームイン＝清原球場、野中美穂撮影

少数精鋭 全員野球が結実

姿川　悲願の優勝

泥だらけのユニホームと最高の笑顔が充実感を物語っていた。延長にもつれ込んだ豊郷との激戦を制し、初の栄冠を手にした姿川。福田哲也監督も「よく頑張った」の一言。試合を重ねるごとに強くなった」と、たくましさを増した選手たちをたたえた。

ハイライト

全国大会ベスト8の小山三を3回戦で倒した粘り強さを、決勝でも存分に発揮した。同点で迎えた八回。先頭の腰塚孔明が左翼に打球を放つと、相手守備の隙を突いた好走塁で二塁へ到達。1死三塁で打席に入った4番の大門稜平は「エンドランのサインだったので、最悪でも転がして1点をもぎ取る」と初球を強振。打球は一、二塁間を抜け、殊勲の大門は一塁上で雄たけびを上げた。

部員は女子マネジャー2人を含めても13人。それでも限られた人数でいかに効率的な練習ができるかを考え、ノックやベースランニングを場面を想定しながら行うなど工夫。柔道部が使用する器具で筋力強化にも取り組み、打力は確実に上がった。野中大貴主将は「苦しい練習を一緒に経験してチームが一つになれた」と胸を張った。

全国大会出場が懸かる関東大会は7月7日に開幕。「投手がしっかり抑えて、チャンスで点を取る自分たちの野球を披露したい」と野中主将。少数精鋭の県王者が粘りと全員野球で関東の強豪に挑む。（野中美穂）